



MORIOKA
ROTARY CLUB WEEKLY

第19回例会(11月16日)
平成24年11月30日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10
川徳デパート内
例会場 同上 TEL(651)1111(代)
FAX(653)5622
例会日 毎週金曜日12時30分～

会長 藤村 文昭
幹事 佐藤 重昭
会報 福田 荘介
クラブ直通電話 TEL(653)5682

奉仕を通じて平和を Peace Through Service..... RI会長 田中作次



ゲスト卓話

「文化芸術と復興支援」

(公財)岩手県文化振興事業団 理事長

池田 克典 様

●スピーカー紹介

池田さんは北上市のお生まれ。小学校のころから盛岡に来ておられ盛岡のご出身という感じもあります。昭和47年に慶應義塾大学法学部法律学科卒業され岩手県庁に入庁。平成8年に県教委の美術館整備室長。その後生活環境部、地域振興部の次長を歴任。平成15年盛岡市助役(現副市長)。平成22年に財団法人岩手県文化振興事業団理事長に就任されました。この文化振興事業団は現在公益財団法人に移行されております。この移行に関しても池田さんが大変ご尽力されたと聞いております。文化振興事業団の理事長は県民会館・県立美術館・県立博物館・さらに埋蔵文化センター等、県の文化関係の総責任者で大変重い責任にあります。昨年の大震災には県にもいろいろな義援金が寄せられました。その中で芸術文化・伝統芸能など、目的を持った義援金を、いわて芸術文化復興エイド寄付金として立ち上げ、大変実績を上げておられます。

.....

はじめに

「岩手県文化振興事業団」という組織は、表に出る機会も然程ありませんから、話はその性格や成り立ちなどから始めるのが妥当かとも思いますが、限られた時間でもありますので、早速にテーマに即した話に入らせてまいります。

1 私たちが「文化振興」に求めるもの

文化芸術の持つ、それ自体の固有の価値、それはそれとして、私たちが文化芸術の振興というときに前提においておりますことは、文化芸術が、これからの「持続可能な地域社会づくり」に不可欠な社会資本であるということです。

いくなれば文化芸術は、地域のコミュニティづくり、商業・観光振興、教育・福祉環境の充実、良好な環境維持等に大きく寄与するということです。このことは、様々な地域での祭り・地域の人たちが、役割分担の下に多数参加することから、それ自体が地域自治の現場といわれる・や展覧会、文化イベント、さらには文化施設整備等のハード事業の齎す^{もたら}広汎な便益を想定していただければよいのでは、と思います。

(なお、6年ほど前に、文化庁が、手前味噌

的ですが、こうしたアプローチ（「地域における文化・芸術活動の行政効果」）の委嘱研究をしています。また、少し古いですが、15年前には、やはり文化庁が「文化の経済効果に関する調査研究」という委託研究を行っています。そこでは、東京の場合ですが、生産誘発効果が「劇場」では1.88倍、「美術館」では1.59倍、これらを利用・鑑賞するための来訪者の消費による誘発効果は1.66倍に上るなどとしています。）

復興支援という課題に様々なセクターが取り組むうえでも、この文化芸術の有する行政効果が意味を持ちます。次に、その観点からの話をしてみたいと思います。

2 復興支援と文化芸術

復興で最優先とされるべきは、いうまでもなく被災者にとって不安のない日常生活が回復されることでしょう。

その面で、直接的に当事業団が関わっている部門は、私どもが管理運営を行っている「埋蔵文化財センター」です。高台移転用地などの埋蔵文化財調査を実施していますが、事業量が急増しており、直接の事業主体となる県教委、市町村教委とともに、他県の応援も得て、冬季前に可能な限り処理するよう現場は努力しています。

当事業団は、そのセンターのほかに、県民会館、博物館、美術館、文化振興基金を管理しています。次に、それらの部門での復興支援の状況についてお話しします。

◎大船渡での文化芸術の復活

大船渡市民会館（リアスホール）は、直接の被害には遭いませんでした。しかし、天井落下など地震の影響はありました。また、避難所となったことから、すぐに通常のホールとしての活用が復活したわけではありません（陸前高田、

宮古、釜石のホールは、全壊又は一階部分が損壊しました）。こうしたなかであっても、リアスホールでは早くも4月30日には県民謡協会による慰問演奏会が、約30名の避難者を集めて行われました。その後、通常のホールとしての使用が可能になった段階から、当事業団の助成事業も含め、多くの復興支援のための公演などが行われています。

今月3日、リアスホールに「浦浜念仏剣舞」など11の郷土芸能団体が集結しました（うち1団体は岩泉からの招待団体）。

42回目ではありますが、今回は「不死鳥のごとく復活・感謝の舞」と銘打たれていました。「感謝」というのは、流失した用具や衣装を揃えるのに、当事業団や日本財団などからの支援を受けたということもあるのでしょうか。郷土芸能、伝統芸能は途切れることなく、復活し、伝承されていくに違いないという確信を地元の人々、支援者、遠方からの観客が持ち得た日となったと思います。

この祭りに先立つ10月29日にも、このホールは多数の応募者の中から選ばれた聴衆で埋まりました。米国のジャズ・ピアニストのB・ジェームスさんが1年ぶりに、昨年の「いわてジャズ」で共演して以来、地元のアマチュアジャズバンドとの共演を果たしたのです。今回は、昨年、彼が大船渡の状況を目の当たりにして作曲した「put your hearts together」（「put our hearts together」と改題）を、今年の「東京ジャズ」で歌った松田聖子さんを伴ってきてくれました。

昨年秋、当事業団の主催事業である「いわてジャズ」に出演するボブは、前日、被災地を歩き、そして共演する大船渡のジャズバンド「サンドパイパス」の練習場を訪れました。彼らのプレハブの練習場は、近くの小学校が全壊したのにもかかわらず、被災を免れたものでした。

被災の状況に心を揺り動かされてボブが書き

上げた曲を、翌日の県民会館での本番に、皆で演奏することになりました。一晚の必死の練習のあと、皆は盛岡に向かいました。

当日、県民会館にはジャズの愛好家たちが詰めかけてくれましたが、実は誰もこの曲に関わるこうしたストーリーを知りませんでした。ボブが弾き始め、松居慶子さんが連弾する、そこに寺井尚子さんのヴァイオリンが加わります。そしてスポットライトは「サンドパイパス」にあてられました。皆の音が一つになり、会場の心が一つになりました、秘められたストーリーは知らないままに。

このストーリーは、その後NHK・BSがドキュメンタリー番組としてまとめ、年末以降7回ほど色々な編集で放送しています。その曲を、今回は松田聖子さんが歌いました。この様子も、12月27日に放送されます、おそらく今年の経緯とともに。「文化の外交力(パブリック・ディプロマシー)」ということがいわれます。大船渡のまち、三陸の被災地で生まれた曲と演奏、三陸の今、いわてのジャズを受容度、色々なこと、「いわて」の、いわば「只者ではない」ところが全国に発信されるのです。「いわて」の存在感を高める役割を文化芸術は果たすことができます。

同じように、三陸の今、そして昔と、変わらぬ三陸海岸の美しさを撮り続けてきた写真家の作品展をこの夏、県民会館で行いました。その展示会を地元ビール会社の役員が観て、感激してくれたのです。そのビールは、ネット通販でも好成績をあげていますが、そのビールセットに同梱する来年のカレンダーに、その作品を起用したいと話があり、間を取り持ちました。三陸の美と、状況を発信するという写真展が、商業的な活用を経て、さらに広がり齎してくれます。

(なお、この展示会は、ここカワトクでも開催されると伺っています。)

3 岩手県文化振興基金の復興支援事業

当事業団の管理する各施設では、震災発生後、それぞれ復興支援のための活動をしてきています。例えば博物館、埋蔵文化財センターにおける「文化財レスキュー」は度々報道されているところです。美術館では、現地でのこどもたちとのワークショップ「ユメのまちづくり」などが評価されています。県民会館は、震災直後に全国の公立館ネットワークなどから寄せられた物資の搬送なども行いました。もちろん、展示会、コンサートなどを通じての支援活動もあります。事務局でも、文化庁の「次代を担う子どもの文化体験事業」を昨年度から受託しています。今年度は、106の小中学校等へ演奏団体などを派遣しています。

これらとは別に、10億円の基金と寄付金を原資にした支援活動も行っています。先程述べた郷土芸能の用具などの整備のための助成もその一つです。

併せて被災地での各種公演への助成も行っています。これらは、とりあえず24年度までの事業としてスタートしたのですが、当然まだニーズはありますので、来年度もメニューを少し加えて、継続することにしたところです。

当事業団は、昨年度公益財団法人に移行しました。当方への寄付については、法人税、所得税とも税法上の措置が受けられます。住民税については、盛岡市の条例は国の措置と連動して規定しましたが、県はまだ、やっていない筈で、取り扱いは一様ではありません。これまでの寄付金の受入状況は資料のとおりですが、さらに勧誘を強めていかねばと思っております。よろしくご理解を賜りたいと存じます。

例会報告

第 19 回例会
平成 24 年 11 月 16 日(金)

- 於 川徳 12時30分 開会点鐘
 ・司会 藤村文昭会長
 ・ソング それでこそロータリー
 ・ゲスト 池田克典様 (岩手県文化
 振興事業団 理事長)。
 ・会長報告 藤村文昭会長
 ・幹事報告 佐藤重昭幹事
 ・委員会報告
 地区 GSE委員 樋山桂会員
 (RI2520地区研究グループ交換
 (GSE) 派遣団員募集)
 ■研修期間 2013年 4月23日～
 5月21日
 ■派遣先 RI4150地区
 (メキシコ・マサトラン)

■応募資格 25歳から40歳までの
 心身ともに健全で地区内に常勤
 で2年以上継続して雇用されて
 いる事。本人または家族がロー
 タリーの組織に属していない事。

【他クラブ例会変更のお知らせ】

- 盛岡西R.C.=11月29日(木)は三陸
 の食を楽しむ夕べ参加 11月28日
 (水)18:30～ニューウイング。
- 盛岡中央R.C.=11月27日(火)は三
 陸の食を楽しむ夕べ参加 11月28
 日(水)18:30～ニューウイング。

【ニコニコ BOX】

◆藤村文昭会長…この度の母、智子
 の逝去に際しましては、会員の皆
 様からは、心温まるお言葉、お悔
 やみ、ご供花、ご弔電などたくさ

んご頂戴いたしまして、誠にあり
 がとうございました。心より御礼
 申し上げます。
 本当に突然の逝去で、今でも、た
 だただ驚いておりますが、お陰様
 をもちまして、葬儀まで滞りなく
 済ませることができました。今後
 とも、どうぞご指導ご鞭撻をよろ
 しくお願いいたします。
 PS: 先日開催されましたゴルフ
 練習会にて、はからずも優勝させ
 ていただきましたので、合わせて
 御礼の気持ちを込めてニコニコし
 ます。

●メークアップ

盛岡南R.C.=熊谷(祐)・吉田(幸)
 君。クラブ委員会=伴・千葉・古
 山・平野・駒木・熊谷(隆)・民
 部田・岡村君。



出席報告 □ 会員数 /64 名 □ 出席数 /26 名 □ 出席率 /47.27% □ 前々回修正出席率 /74.07%

プログラムの
お知らせ

- ・11月 23日(金) 祝日休会 (勤労感謝の日)
- 30日(金) ゲスト卓話 山本玲子 様 (石川啄木記念館 学芸員)
 「啄木没後百年 愛され続ける啄木」
- ・12月 7日(金) ゲスト卓話 木村 剛 様 (㈱ベアレン醸造所 代表取締役社長)
- 14日(金) 年次総会、会員卓話 高橋真裕君
 「最近の金融経済動向」
- 21日(金) 年忘れ家族会
- 28日(金) 特別休会

●本号編集担当 / 福田 荘介
 ●次号編集担当 / 嘉本 孝志